

南新保ゴマヂマチ遺跡現地説明会 資料

令和7年7月27日（日）

調査主体：金沢市埋蔵文化財センター

調査支援：日本海航測株式会社

1. 調査概要

調査原因	金沢市南新保土地区画整理
調査期間	令和6年10月～令和7年7月
調査地	金沢市大友地内
調査面積	約8,750m ²
主な遺構	弥生時代：方形周溝墓、布掘建物、掘立柱建物、土坑、小穴、溝、古墳時代：前方後方墳、陸橋をもつ方墳
主な遺物	弥生時代：弥生土器、木製品、石製品、玉製品 古墳時代：土師器、木製品、石製品

2. 発掘された古墳

今回の調査では、方墳1基と前方後方墳2基の計3基の古墳がみつかった。

遺構名	1号墳 (SD6016)
種類	陸橋部をもつ方墳（方墳から前方後方墳への過渡的な方墳）
規模	墳丘規模：約11.7m／周溝幅：約1.5～3.2m／周溝深：約0.10～0.55m
年代	古墳時代前期（4世紀頃）
特徴	今回報告の中で最も古い／周溝から時期を示す土器が出土／墳丘は消失

遺構名	2号墳 (SD6021)
種類	前方後方墳
規模	墳丘規模：約34.0m／周溝幅：約2.7～8.0m／周溝深：約0.45～0.65m
年代	古墳時代前期（4世紀頃）
特徴	北加賀最大の前方後方墳／周溝から古墳祭祀を示す土器や木製品が多数出土／3号墳と並列／墳丘は消失

遺構名	3号墳 (SD6035)
種類	前方後方墳
規模	墳丘規模：約33.3m／周溝幅：約2.5～6.5m／周溝深：約0.15～0.35m
年代	古墳時代前期（4世紀頃）
特徴	2号墳と並列／1号墳よりも古く／周溝から土器や木製品が出土／墳丘は消失

3. 笠形木製品

2号墳からA～E、3号墳からFが出土し、残り具合の良いAやBは、外面半球状、裏面は平坦で中央に方形の穴があけられ、外面にも複数の穴があいていることが確認できる。

Aは外面に85mm×40mmの円形の穴が2箇所あり、復元すると4～5つの穴があいていた可能性がある。Bは側部下端で面取りをしている可能性がある。外面に70mm×60mmの円形の穴が2箇所、57mm×20mmの長方形の穴が1箇所あけられている。円形の穴は対になる位置にあり、2つの穴が内部でつながっていた可能性があるが、長方形の穴は貫通しない。

なお、類似品として、畿内（現在の近畿中央部）を中心とした古墳時代中期～後期の古墳から出土する「笠形木製品」がある。「蓋（きめい）（貴人に差し掛ける長柄の笠）」を模した木製品で、円盤状の笠部と杭状の支柱からなり、古墳の周囲を取り巻くように立てられていた姿が復元されている。畿内を中心とした出土する「笠形木製品」は王権に関わる古墳から出土することが指摘されており、コウヤマキ製で側面垂直面に襞表現や裏面に円形割り込みがあり、貫通する中央孔をもつといった特徴がみられ、モデルである「蓋」忠実に再現している。

今回出土した笠形木製品は、畿内周辺出土の「笠形木製品」よりも古い古墳時代前期のものであり、畿内周辺出土品とは細部が異なることから、異なる系譜であることが予想される。

しかし、外面の損傷具合が裏面よりも強くみられることから、外面が風雨や日光に長時間繰り返しされる環境、つまり前方後方墳に一定期間たてられていた使用状況が想定される。また、周溝からは支柱となるような杭状木製品も複数出土していることから、畿内周辺出土の「笠形木製品」と同様の使用状況、つまり墳丘にたてる古墳祭祀が行われていたものと考えられる。

4. 新たな発見－前方後方墳で行われた古墳祭祀－

①笠形木製品－前方後方墳からは初出土－

前方後方墳からの出土は国内初の事例であり、木製品を前方後方墳にたてる古墳祭祀が行われていたことが明らかとなった国内最古の事例である。これまで考えられていた前方後方墳の祭祀形態に一石を投じる貴重な新発見であるといえる。北陸初の出土でもある。

なお、古墳時代中期～後期に畿内周辺で出土する「笠形木製品」とは系譜が異なるが、古墳にたてて使用した状況は類似していると考えられ、その時期は畿内よりも古い。

②北加賀最大の前方後方墳など、3基の古墳の発見

古墳の大きさは地域勢力の規模や地域における有力者の力の大きさを表すと考えられている。北加賀最大の前方後方墳の存在は古墳時代前期に地域の有力者が本遺跡周辺に存在していたことを示すものである。また、時期的変遷のある古墳の発見は、複数世代にわたって勢力が継続した状況を示す。古墳時代前期の北加賀地域における勢力関係の一端が明らかとなった。

南新保ゴマヂマチ遺跡 前方後方墳出土品



笠形木製品(B)



建材か 柵か



笠形木製品



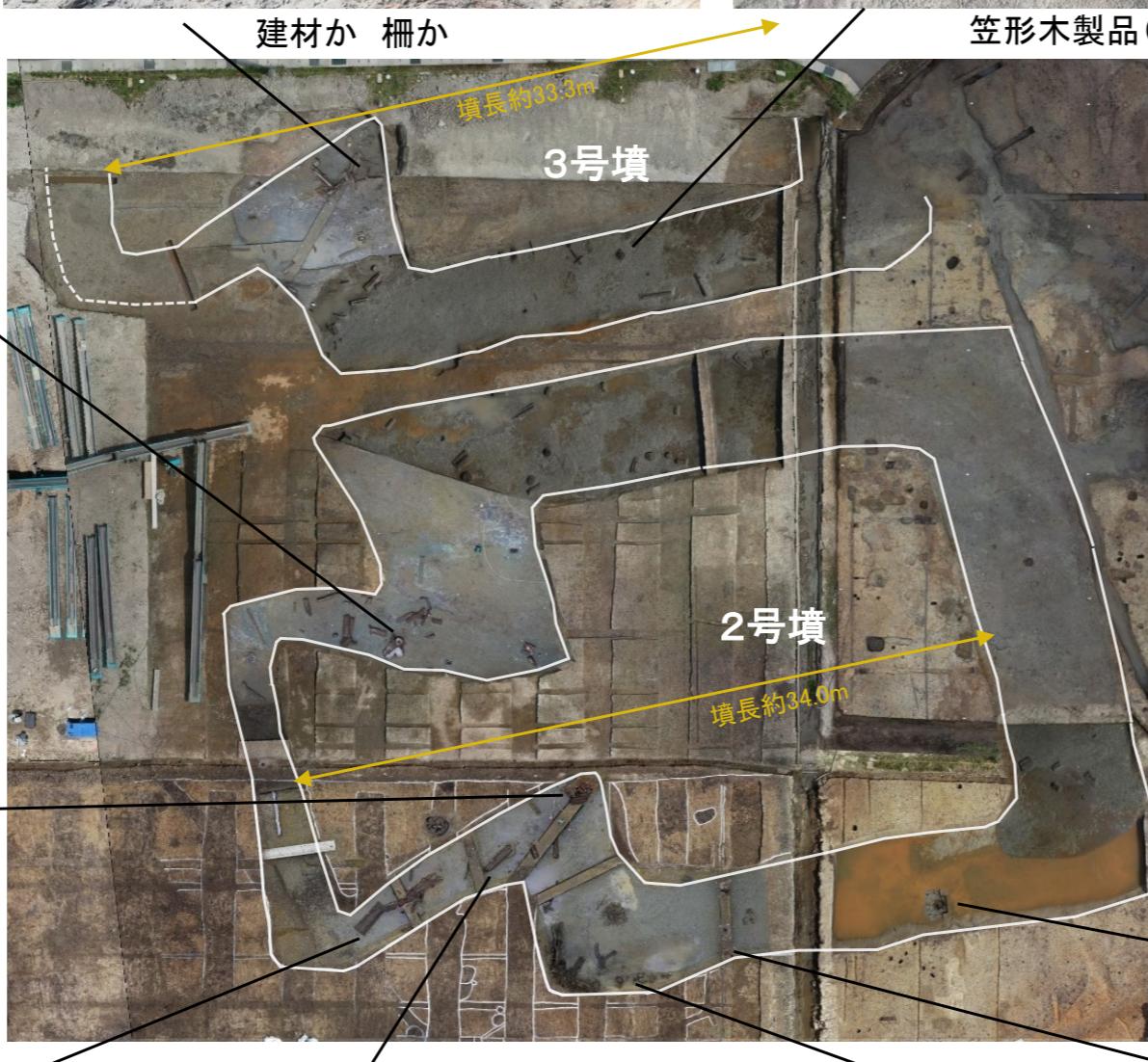
笠形木製品(C)



左上:大型壺 左下:笠形(B) 右:板狀木製品



左上：鋤 左下：板狀木製品 右上：底部穿孔壺



2号地

增長約33.3%

總長約33.3m



笠形木製品 (A)



杭状木製品(割材)



笠形木製品(A)



樹立する棒状木製品 断面図



孔のある板状木製品

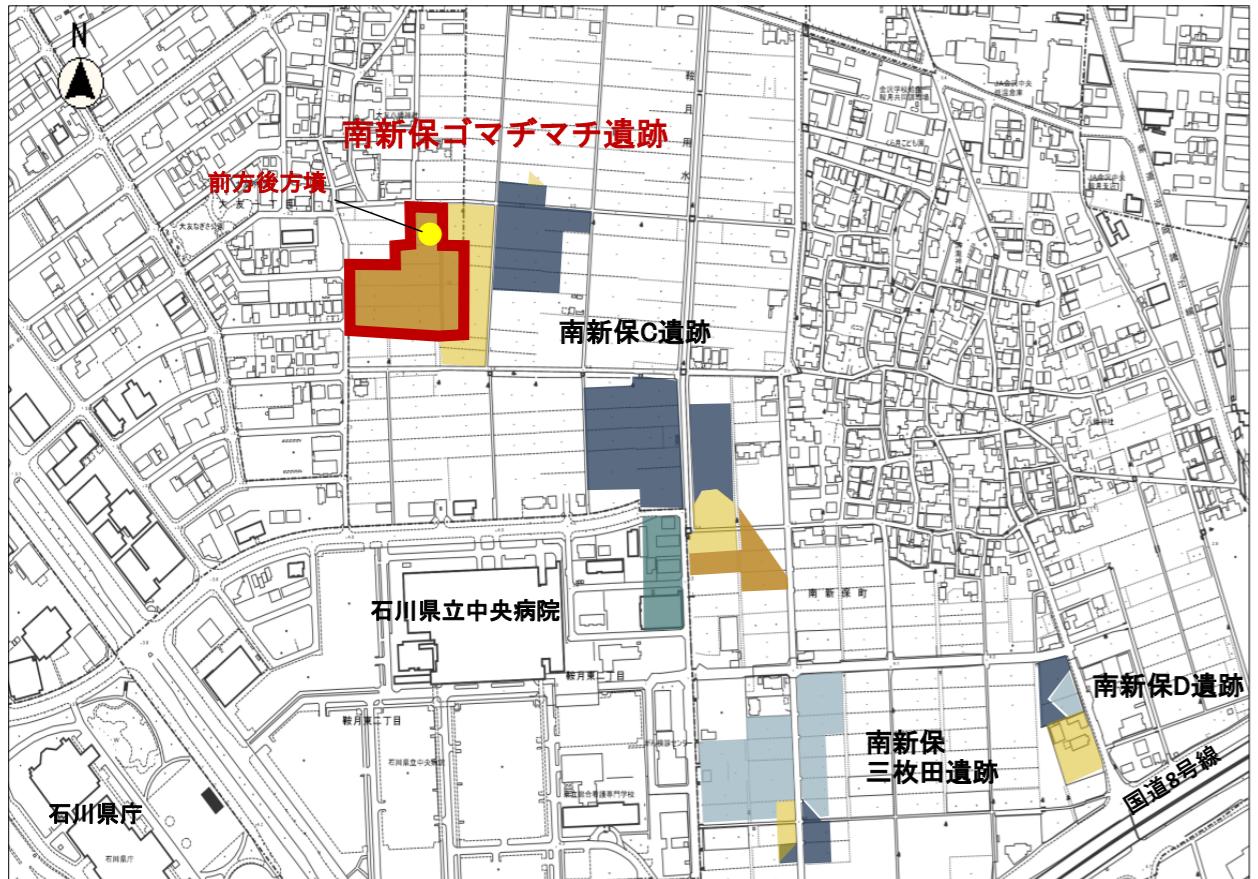


樹立する杭状木製品(芯持ち材)



板状木製品と両端にほぞのある方形木製品

南新保遺跡群発掘調査範囲



発掘調査範囲

平成8・9年度(石川県)
令和2・3年度(金沢市)
令和4年度(金沢市)
令和5年度(金沢市)
令和6年度(金沢市)

調査面積

令和2年度 約7,500m²
令和3年度 約15,000m²
令和4年度 約12,200m²
令和5年度 約11,500m²
令和6年度 約12,100m²

南新保ゴマダマチ遺跡 遺構全体図

